

ビバハウス創設満 10 周年・ビバハウス便り号外（その 1）

2010 年 9 月 1 日

9 月 1 日のビバハウス創設の日の朝を迎え、真っ先に思ったことは、この 10 年間、いかに多くの方々から助けられて来たかと言うことだ。その都度のビバハウス便りで心からの感謝をこめて、書かせて頂いた方も多いが、改めてこの記念の日に思い返してみたい。

まず何よりも、俊子も書いているように、心ならずも健康上の理由で、志を持ちながら、中途退職せざるを得なかった身に、結局北星高校と一番身近に関りながら若者のために働ける場・ビバハウスを作らせてくれた、北星の生徒たちと卒業生、親御さんたちに真っ先に感謝しなければならない。「北星を止めても、これからも変わらずに、あなた方を学校の外から応援し、支援し続けたい」との二人の夢を実現させてくれたのだから。事実北星の父母の皆様、さらに卒業生の皆様からは、創設時の、除雪機購入資金、大型屋根敷設費へのカンパ、さらには、原木椎茸園開設資金の貸付と数限りないご支援を頂き、今日もまだ様々なご支援を引き続き頂いている。よくビバを尋ねてこられた方々にクイズを出すのだが、「この食堂の中で、ビバがお金を出して買ったものは、2 つしかありません、そのほかのすべての物はほとんど建設時に北星の父母の皆さんから頂いたものです。」なかなか正解は出ないが、ひとつは、「調理用レンジ」、二度うっかりつけっぱなしで火事を出しそうになり、温度が高くなると自動的に消火するものに高かったが替えた。もうひとつは「炊飯器」で、10 人近い男の子が毎食開け閉めする炊飯器は、半年で、炊飯が出来なくなり、保温専用器になってしまう。（でもこのことを知ったある卒業生は定期的に高価な炊飯器を送ってくれるようになった。）

創設時に比べるとすべての物価、特にビバにとって痛い、電気代、灯油代、ガソリン代などの大幅値上げにも耐えて、初めからの利用料一日 3 千円、ひと月 9 万円を一度も値上げせずにやって来れたのも、ビバには強力な秘密兵器があるからだ。なんといっても最強力なのは、日高の牧場主、吉田さんからの定期的なおいしいお米の差し入れだ。ビバに一番ありがたい贈り物はお米そのものだと知った多くの方々からもその都度貴重なプレゼントを頂いている。さらにこの数年、お米以外のパンや野菜、その他のあらゆる食材を毎月 1 回ボンゴ車に満載するほど下さる北海道フードバンク（札幌）の小山さんのご好意ほどありがたいものはない。若者たちに、「何杯でもお替りしなさい。お腹いっぱいおいしいご飯を食べれば、喜びは倍に、悲しみは半分になると日高の吉田さんは言ってるよ！」こんな言葉を若者たちに語れるビバの生活を支えてくださるすべての皆様にただ感謝のみ！